

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04094

研究課題名(和文) ナショナルなシティズンシップの分断と移民・難民・先住民族：社会学的日豪比較研究

研究課題名(英文) The division of national citizenship and immigrants, refugees and indigenous peoples: sociological comparative studies of Australia and Japan

研究代表者

塩原 良和 (Shiobara, Yoshikazu)

慶應義塾大学・法学部(三田)・教授

研究者番号：80411693

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代の社会変動がもたらす国民国家のシティズンシップの変容をエスニック・マイノリティとマジョリティ国民の関係性の変化という視点から考察することで、日本を含む先進諸国における多民族・多文化共生の社会学的研究に貢献することを目指した。具体的には、移民・難民・庇護申請者、先住民族が国民国家のシティズンシップへと包摂されるあり方がグローバル化と新自由主義の影響によってどのように変容しているのかを、日本とオーストラリアにおける社会学的現地調査と国際比較分析によって明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、先行研究が指摘してきた、グローバリゼーションと新自由主義がもたらすナショナルなシティズンシップの動揺と分裂のあり方について、先住民族を含めたエスニック・マイノリティとマジョリティ国民の関係性という独自の着眼点から綿密な社会学的な現地調査を実施し、そこから得られたデータに基づいた理論的一般化を行ったことにある。さらに、日本とオーストラリアを題材とした比較考察を行う点にも特徴があった。またこうした研究を著書、論文、学会等での報告として公開することで、多民族・多文化共生を目指す学問的・実践的取り組みに貢献することができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project was to examine the transformation of citizenship in nation states by contemporary social change. Examining from the perspective of the changing relationships between ethnic minorities and the majority, this project aimed to contribute to the sociological study of multi-ethnic and multicultural co-living in developed countries, including Japan. This project focused on how migrants, refugees/asylum seekers and indigenous peoples are included in the citizenship of the nation-states, and how the way of inclusion is changed by globalization and neoliberalism through the field researches and comparative analysis in Australia and Japan.

研究分野：社会学

キーワード：多文化主義 移民 先住民族 シティズンシップ 排外主義 分断

1. 研究開始当初の背景

シティズンシップ理念は、18世紀に台頭した近代国民国家システムと深く結びついてきた。それゆえ今日の先進諸国では、ある個人が国民国家という領域に帰属・居住する程度を根拠としてその権利を保障し義務を課すという、ナショナルで領域的なシティズンシップの理念と制度が定着している。

研究代表者が博士論文研究以来一貫して研究対象としてきた「多文化主義」は、移住者や先住・少数民族といったエスニック・マイノリティを、文化的差異の承認と構造的な不平等の是正によってナショナルで領域的なシティズンシップへと包摂する理念・政策である。研究代表者は、多文化主義を移民への社会統合政策として発展させてきたオーストラリアを主な分析対象としつつ、日本における「多文化共生」を目指した外国人住民支援施策に関する実態調査や実践的取り組みにも関わってきた。その結果、エスニック・マイノリティ向け社会政策がグローバル化と新自由主義によって変質し、エスニック・マイノリティを社会的に包摂するだけでなく選別・排除する側面をもつに至ったことを実証的・理論的に明らかにしてきた。

こうした研究を進めていくなかで、エスニック・マイノリティ向け社会政策の変化は、現代国民国家におけるシティズンシップのあり方そのものの変容と深い関係があることが明らかになってきた。多くの先行研究が指摘するように、ナショナルで領域的なシティズンシップの理念と制度は、グローバル化にともなう政府の政策的自律性の低下と国境を越えた人の移動の増大によって揺らいでいる。こうした変化は、いっぽうでは国民国家を超えたコスモポリタンなシティズンシップの可能性をもたらす。あるいは、国境を自由に越えて移動し、国家に利益をもたらす存在として政府によって歓迎・歓迎される高度人材・ミドルクラス移民が体現する「フレキシブルなシティズンシップ」を台頭させる。しかし他方では、グローバル経済の動向に国家政策を従属させようとするグローバリズム／新自由主義の影響が増大し、社会民主主義と福祉国家的社会政策によるシティズンシップの保障の取り組みが後退した結果、国家の内部に存在しながら権利や尊厳を保障されずに中途半端な包摂の状態に置かれる人々が増加する。先住民族向け社会政策の停滞も、先住民族がこうした状態から脱却することを妨げる。また欧州諸国で問題化している難民・庇護希望者のように、シティズンシップそのものを否定され国民社会から物理的・法的に排除される人々も顕在化している。

2. 研究の目的

こうした研究動向を踏まえ、高度人材・ミドルクラス移民、難民・庇護希望者、そして先住民族といったエスニック・マイノリティの人々のシティズンシップのあり方の変容に注目することで、ナショナルで領域的なシティズンシップが現代の社会変動のなかでどのように細分化され、再編成されようとしているのかを実証的・理論的に明らかにするのが本研究の目的であった。そのために、日本とオーストラリアを主な比較分析の対象としつつ、新たに高度人材・ミドルクラス移民も射程に含めた。また分析の強調点を公共政策から、その政策の対象となるコミュニティにおける移民、難民・庇護希望者、先住民族とマジョリティ国民との相互作用のあり方に移すことで、グローバル化と新自由主義が国民国家のシティズンシップを分断していく社会的プロセスを浮き彫りにしていくことを試みた。

3. 研究の方法

以下のような方法で研究を進めた。

(1) 2016年度には、オーストラリアでのフィールド調査を8月と11月に実施した。オーストラリアにおける移民の社会参加のケーススタディとして、シドニーの日本人移民の市民活動イベントの視察と関係者への聞き取りを重点的に行った。また3月の調査では、韓国系移民によってシドニーの郊外に建設された「慰安婦像」をめぐる現地での動きと日本人移民コミュニティへの影響についての調査を行った。これらは研究代表者が続けている在豪日本人移民研究に、シティズンシップの視点からの示唆をもたらす重要なものであった。文献資料の収集としては、オーストラリアにおける、庇護希望者問題を含む人種差別の歴史や近年の排外主義の台頭に関する先行研究や公文書資料などの収集を、オーストラリア国立図書館やNSW州立図書館を中心に行った。

(2) 2017年度は、9月、11月、3月に、それぞれ1週間から10日程度のオーストラリアでの現地調査を行った。調査は聞き取りとインタビュー、参与観察、文献資料の収集を行った。フィールドワーク・インタビュー調査としては、オーストラリアにおける移民の社会参加のケーススタディとして、シドニーやメルボルン、キャンベラにおいて市民活動に関わる日本人移民への聞き取りや、イベントの視察を重点的に行った。またオーストラリアの大学に勤務する、問題意識を共有する研究者との意見交換や研究交流を積極的に行った。文献資料の収集としては、オース

トラリアにおける、庇護希望者問題を含む人種差別の歴史や近年の排外主義の台頭に関する先行研究や公文書資料などの収集を、オーストラリア国立図書館やNSW州立図書館を中心に行った。また、オーストラリアのマスメディアにおけるイスラム嫌悪の表象のあり方を分析するために、現地の新聞記事の20年から30年分のテキストデータを収集した。

(3) 2018年度には、オーストラリアでの現地調査を3回、計3週間ほど実施した。現地におけるミドルクラス移民の社会的編入のあり方を把握するために、日本人永住者のコミュニティ活動の指導者や現地で永住する日本人ジャーナリストや研究者への聞き取りを行った。またかれらの行っているコミュニティ活動への参与観察を行った。またオーストラリアの移民・多文化主義政策に詳しい現地大学の研究者との意見交換を行った。オーストラリア国立図書館やNSW州立図書館での資料収集も行い、成果を得た。

(4) 最終年度である2019年度には、これまでの研究の成果を総合して分析を進めると同時に、昨年度までの調査のフォローアップとして、9月にはシドニーにおける聞き取り調査も実施した。

(5) 上記のようなオーストラリアでの現地調査、文献収集を行うのと同時進行で、日本国内におけるフィールドワークや資料収集と分析を進め、日本とオーストラリアにおける移民・難民・先住民族のシティズンシップのあり方と、そうした人々に対するマジョリティ国民の排外主義についての比較考察を行った。

4. 研究成果

本研究では現代日本とオーストラリアのエスニック・マイノリティのシティズンシップが社会変動にともなって分断され、それがそうした人々へのマジョリティからの排外主義を正当化し、活性化させるあり方を、豊富なデータを用いて多様な角度から実証的に明らかにした。それをもとに、一定の理論的示唆を得ることができた。その成果は、以下のような活動を通じて公開された。

(1) 2016年度には、予備的考察としていくつかの論文や研究報告、編著書を発表した。

(2) 2017年度には、研究の中間成果として、いくつかの単著や編著書などを発表することができた。また公刊した単著に関する書評会も企画することができた。

(3) 2018年度には、さらなる分析の進捗の成果を2つの学会での招待講演、3つのシンポジウムでの招待講演(ひとつは英語)で発表した。その内容は1つの学術論文として年度内に刊行された。

(4) 最終年度である2019年度には、研究成果の発信に力をいれた。6月のオーストラリア学会30周年国際大会、7月のオランダでのICAS国際大会において英語で報告した。さらに研究成果公開の一環として、Routledge社より英語の編著書(筆頭編者)、また法律文化社より日本語の編著書を、いずれも所収論考を含めて刊行した。このほか、国際学術雑誌IJJSにて英文の査読付論文を刊行した。さらにSage社よりもうひとつの英語の編著書(筆頭編者)の刊行準備を進め、2020年度前半に刊行することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Shiobara Yoshikazu	4. 巻 29
2. 論文標題 Genealogy of "tabunka kyosei": A Critical Analysis of the Reformation of the Multicultural Co living Discourse in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Japanese Sociology	6. 最初と最後の頁 22-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1111/ijjs.12109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 塩原良和	4. 巻 106
2. 論文標題 「共有」と「強要」のあいだで：日豪の多文化共生 / 多文化主義理念の変容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際文化研修	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 塩原良和	4. 巻 74(12)
2. 論文標題 多文化共生は排外主義を抑制しうるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 塩原良和	4. 巻 21
2. 論文標題 分断社会における排外主義と多文化共生 日本とオーストラリアを中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 107-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塩原良和	4. 巻 23
2. 論文標題 書評リプライ『分断するコミュニティ』『分断と対話の社会学』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三田社会学	6. 最初と最後の頁 116-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塩原良和	4. 巻 83(6)
2. 論文標題 外国人労働者受け入れと多文化共生 いま、ここにある多文化化の現実から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩原良和	4. 巻 62(2)
2. 論文標題 (書評)デブナール・ミロシユ著Migration, Whiteness and Cosmopolitanism: Europeans in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ソシオロジ	6. 最初と最後の頁 97-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩原良和	4. 巻 23
2. 論文標題 いま移民研究に何ができるのか?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 移民研究年報	6. 最初と最後の頁 756-757
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikazu Shiobara	4. 巻 90(1)
2. 論文標題 Between Liberation and Neglect: 'Community-based' Approaches and Neoliberalism in Policies for Asylum Seekers in Australia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法学研究	6. 最初と最後の頁 518-542
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塩原良和	4. 巻 491
2. 論文標題 共生と対話 多文化主義の刷新のために	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 TASC MONTHLY	6. 最初と最後の頁 12-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塩原良和	4. 巻 43
2. 論文標題 「人口問題」と多文化共生 「経済」の論理と「権利」の規範	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 世界思想	6. 最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩原良和	4. 巻 67(3)
2. 論文標題 書評: 南川文里『アメリカ多文化社会論 「多からなる一」の系譜と現在』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 345-347
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塩原良和・昔農英明・鈴木真弥	4. 巻 21
2. 論文標題 「特集：移民の政治的統合の内実 政治社会学的地域研究の視座から」序言	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 三田社会学	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件(うち招待講演 6件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Yoshikazu Shiobara
2. 発表標題 Multiculturalism and Tabunka Kyosei: A Comparative Perspective on Australia and Japan
3. 学会等名 オーストラリア学会30周年国際大会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshikazu Shiobara
2. 発表標題 Genealogy of "tabunka kyosei": The formation and change of multicultural coexistence discourse in Japan
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asian Scholars(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩原良和
2. 発表標題 排外主義の台頭と多文化共生
3. 学会等名 社会学系コンソーシアム・日本学会議 第11回シンポジウム「アジアがひらく日本」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩原良和
2. 発表標題 分断する社会の諸相 日本とオーストラリアを中心に
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年度研究大会 部会13「『分断』を再考する」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshikazu Shiobara
2. 発表標題 Is This the Mutual Permeation of Border Control and Social Integration?: Implementation of Policies for "Multicultural Coexistence" in Contemporary Japan
3. 学会等名 一橋大学国際社会学プログラム科学研究費プロジェクトチーム主催・国際シンポジウム「トランスナショナル化と国境/境界規制 北米・EU・日本の比較」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩原良和
2. 発表標題 排外主義に対峙するための『ラディカル・オーラル・ヒストリー』再読
3. 学会等名 オーストラリア学会関東例会/東京外国語大学海外事情研究所シンポジウム「ポストファクト時代におけるGlobalizing reconciliationのゆくえ」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩原良和
2. 発表標題 複言語主義と多文化共生: 排外主義に対峙するために
3. 学会等名 日本言語政策学会第20回記念大会 パネルディスカッション「言語教育政策としての複言語主義は移民・難民問題を乗り越えられるか」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩原良和・鈴木弥香子
2. 発表標題 「多文化共生」は排外主義を克服することができるか？
3. 学会等名 カルチュラル・タイフーン（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shiobara, Yoshikazu
2. 発表標題 From Neighbourhood Campaign to Civic Participation?: Community Activities of Japanese Immigrants in Sydney and Melbourne
3. 学会等名 Monash University Japanese Studies Centre Seminar（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 塩原良和
2. 発表標題 居場所とゆとり 社会変動論的視座から
3. 学会等名 上智大学教育イノベーション・フォーラム「居場所論の『現在』」（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 Yoshikazu Shiobara, Kohei Kawabata and Joel Matthews編著、他15名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 278
3. 書名 Cultural and Social Division in Contemporary Japan: Rethinking Discourses of Inclusion and Exclusion	

1. 著者名 関根政美・塩原良和・栗田梨津子・藤田智子編著、他12名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 318
3. 書名 オーストラリア多文化社会論 移民・難民・先住民族との共生をめざして	

1. 著者名 宮崎里司・樋口くみ子編著、塩原良和、他9名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 オセアニア出版社	5. 総ページ数 221
3. 書名 サスティナビリティ・サイエンスとオーストラリア研究 地域性を超えた持続可能な地球社会への展望	

1. 著者名 塩原良和	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 200
3. 書名 分断するコミュニティ オーストラリアの移民・先住民族政策	

1. 著者名 渡戸一郎編者代表、塩原良和・長谷部美佳・明石純一・宣元錫編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ハーベスト社	5. 総ページ数 311
3. 書名 変容する国際移住のリアリティ 「編入モード」の社会学	

1. 著者名 塩原良和	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版局	5. 総ページ数 224
3. 書名 分断と対話の社会学 グローバル社会を生きるための想像力	

1. 著者名 移民政策学会設立10周年記念論集刊行委員会編、塩原良和、他55名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 移民政策のフロンティア 日本の歩みと課題を問い直す	

1. 著者名 日本社会学会 理論応用事典刊行委員会編、塩原良和、他228名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 952
3. 書名 社会学理論応用事典	

1. 著者名 塩原良和・稲津秀樹編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 288
3. 書名 社会的分断を越境する 他者と出会いなおす想像力	

1. 著者名 塩原良和・小井土彰宏・飯尾真貴子・堀井里子・柄谷利恵子・伊藤るり・久保山亮・昔農英明・宣元錫・上林千恵子・鈴木江理子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 380
3. 書名 移民受入の国際社会学 選別メカニズムの比較分析	

1. 著者名 塩原良和・長友淳、他11名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 252
3. 書名 オーストラリアの日本人 過去そして現在	

1. 著者名 塩原良和・西原和久・樽本英樹、他15名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 332
3. 書名 現代人の国際社会学・入門 トランスナショナリズムという視点	

1. 著者名 Yoshikazu SHIOBARA、他9名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 SAGE	5. 総ページ数 1716
3. 書名 Migration Policies in Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----